

(6) 運転事故の概況

(7) 民鉄(JRを除く)の運転事故の概要

令和3年度の全国における運転事故総件数は図-1に示すとおり、304件で対前年度53件(21.1%)減であった。

列車走行100万キロ当たりの事故件数の推移については、図-2に示すとおり、鉄道においては、0.4件で前年度(0.4件)と同数であり、軌道においては、1.7件で前年度(1.7件)と同数であった。

九州管内における令和3年度の運転事故総件数は図-1に示すとおり、14件で対前年度4件(22.2%)減となっており、鉄・軌道別に見ると表-1に示すとおり、鉄道においては前年度(9件)より3件増加し、軌道においては2件で前年度(9件)より7件減少した。

事故の種類別は表-1及び図-3に示すとおり、鉄道においては踏切障害事故及び人身傷害事故が全体の約86%、軌道においては道路障害が全体の約14%を占めている。

運転事故を原因別に見ると、図-5及び図-6に示すとおり、令和3年度では鉄道においては全ての運転事故が部外原因となっており、内容は、踏切道及び線路内立入となっている。軌道においては、全て部外原因となっており、内容は線路内支障となっている。

インシデントについては、図-18に示すとおり、令和3年度は前年度より1件増加となっている。

これらの事故等を防止するためには、鉄・軌道事業者の安全確保に向けた取り組みはもとより、鉄道利用者、踏切通行者、沿線住民等への注意喚起・啓蒙活動等を交通安全運動等機会あるごとに啓発し、踏切道に関しては、引き続き踏切道の立体交差化、構造の改良、踏切保安設備の整備、統廃合の促進、その他踏切道における対策を積極的に推進していく必要がある。

表-1 管内運転事故件数及び死傷者数（民鉄）

（各年度末現在）

鉄・軌道別 事故種別		鉄 道						軌 道						計					
		28	29	30	R1	R2	R3	28	29	30	R1	R2	R3	28	29	30	R1	R2	R3
列車衝突	件数							1 (1)	2 (2)	1 (1)		2 (2)		1 (1)	2 (2)	1 (1)		2 (2)	
	死亡																		
	負傷											4 (4)						4 (4)	
列車脱線	件数	1 (1)		1 (1)	1			2 (1)	2 (2)			1		3 (2)	2 (2)	1 (1)	1	1	
	死亡				1												1		
	負傷				1												1		
列車火災	件数																		
	死亡																		
	負傷																		
踏切障害	件数	8	11	7	7	5	7	1		1	2	1		9	11	8	9	6	7
	死亡	2	2		1	1	2							2	2		1	1	2
	負傷		2	4	1	3	4	1						1	2	4	1	3	4
道路障害	件数							10 (2)	3	3 (2)	1	3	2	10 (2)	3	3 (2)	1	3	2
	死亡																		
	負傷							7 (2)	3	4 (1)	4	2	1	7 (2)	3	4 (1)	4	2	1
人身障害	件数	5	4	1	1	4	5	2 (1)			1	2 (1)		7 (1)	4	1	2	6 (1)	5
	死亡	2	1			1	2							2	1			1	2
	負傷	3	3	1	1	3	3	2 (1)			1	2 (1)		5 (1)	3	1	2	5 (1)	3
その他	件数																		
	死亡																		
	負傷																		
合計	件数	14 (1)	15	9 (1)	9	9	12	16 (5)	7 (4)	5 (3)	4	9 (3)	2	30 (6)	22 (4)	14 (4)	13	18 (3)	14
	死亡	4	3		2	2	4							4	3		2	2	4
	負傷	3	5	5	3	6	7	10 (3)	3	4 (1)	5	8 (5)	1	13 (3)	8	9 (1)	8	14 (5)	8
列車走行キロ(千km)	20,256	20,177	20,002	20,006	19,180	18,976	5,890	5,852	5,825	5,742	5,348	5,285	26,146	26,029	25,827	25,748	24,528	24,261	
100万キロ当たりの件数	0.69	0.74	0.45	0.45	0.47	0.63	2.72	1.20	0.86	0.70	2.73	0.38	1.15	0.85	0.54	0.50	0.73	0.58	

資料：鉄道部安全指導課

(注) ()内は有責事故

図-1 運転事故件数の推移 (民鉄)

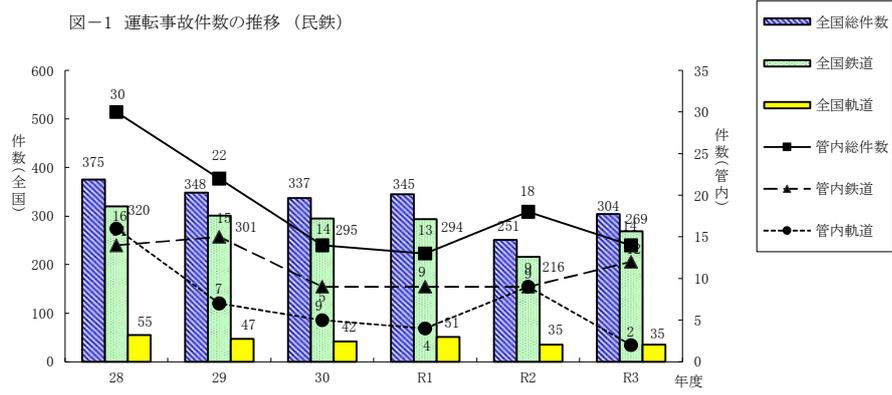


図-2 列車走行 100 万キロ当たり事故件数の推移 (民鉄)

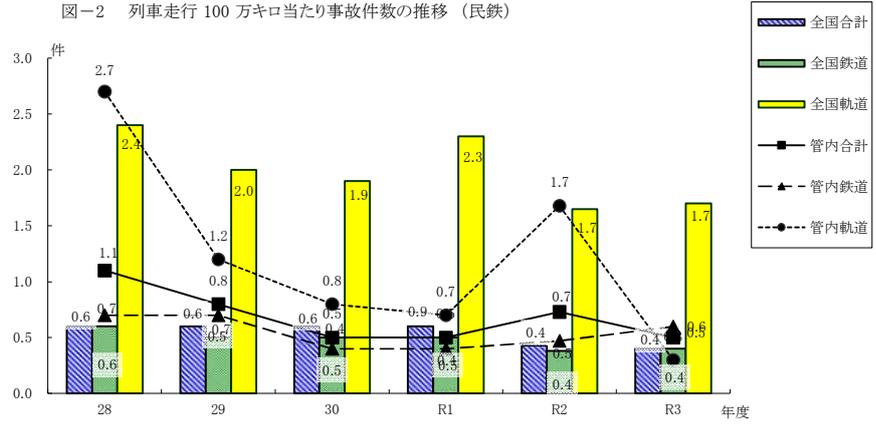


図-3 運転事故の種類別件数の推移

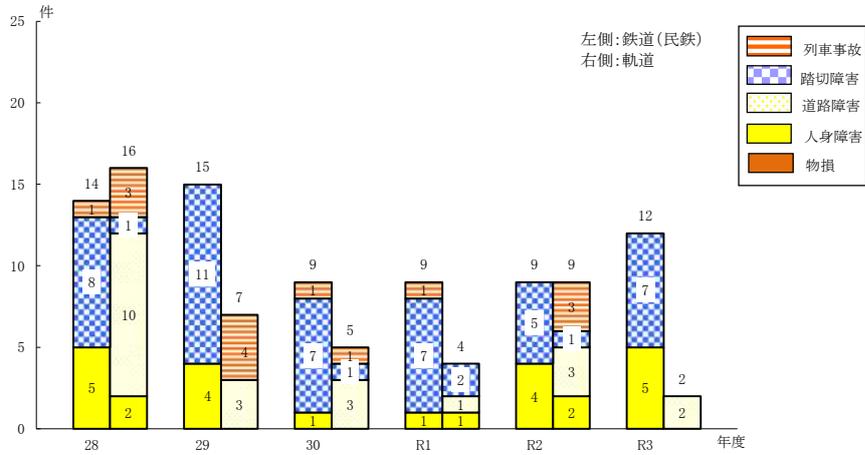


図-4 運転事故による死傷者数の推移

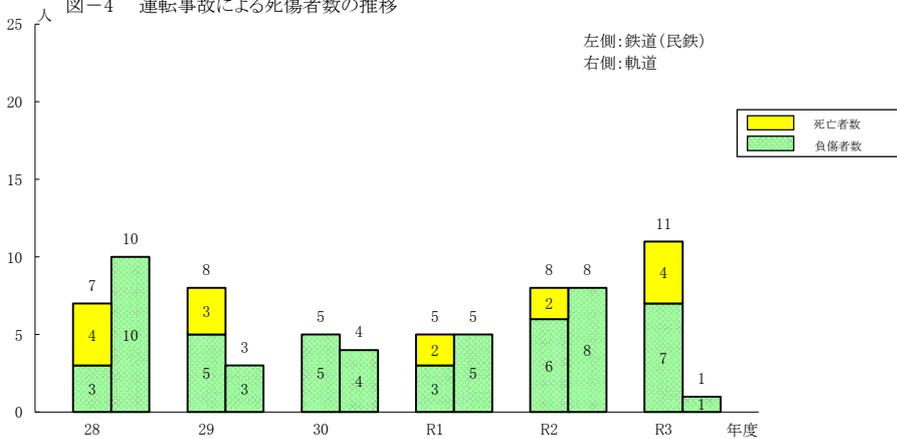


図-5 運転事故の原因別件数の推移

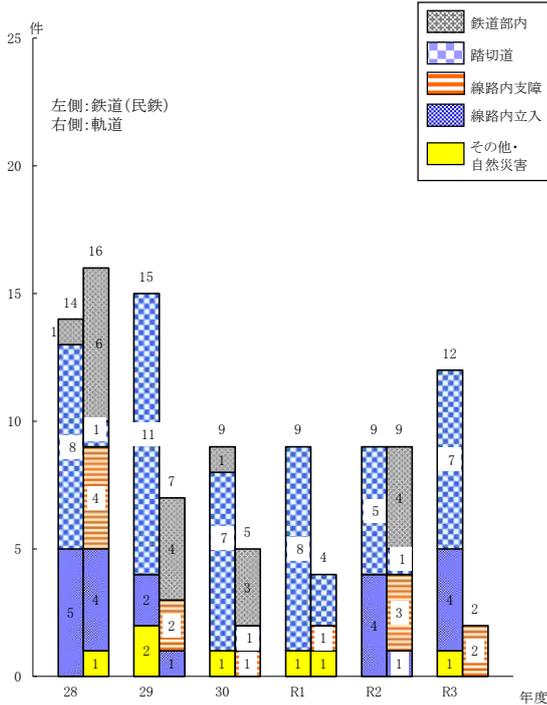


図-7 責任事故の原因別件数の推移

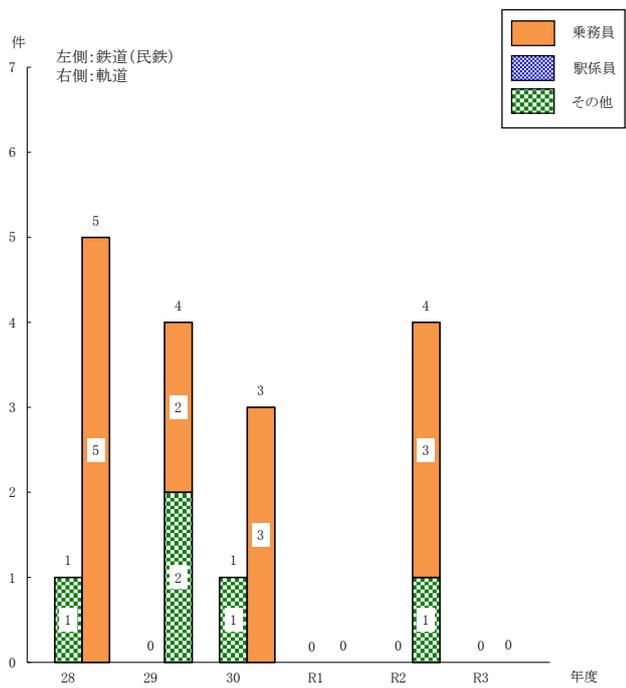
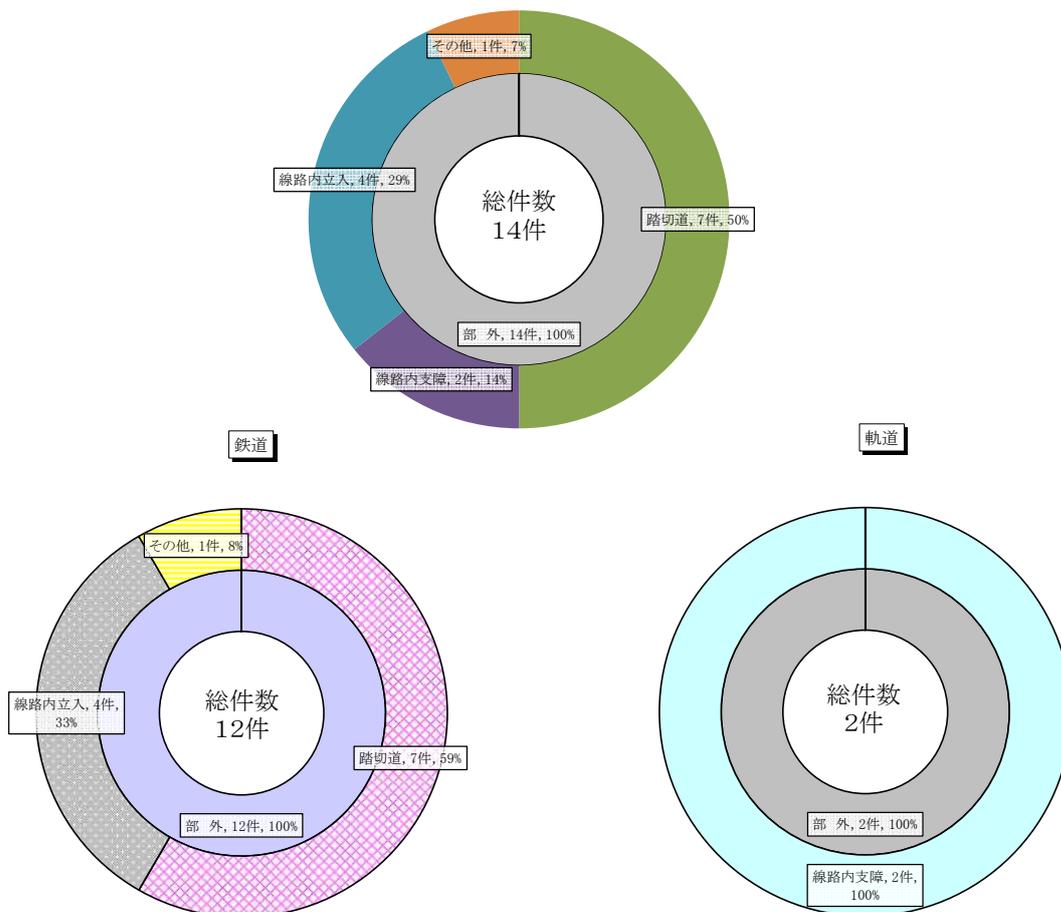


図-6 運転事故の原因別件数



ア. 列車事故

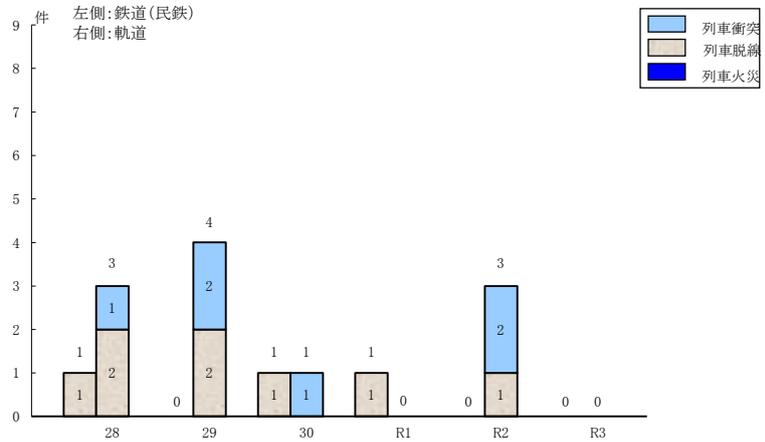
令和3年度の発生件数は、表-2及び図-8のとおり、軌道3件であり前年度より2件増加した。事故の種類別に見ると、列車衝突事故2件、列車脱線事故1件が発生している。

表-2 列車事故原因推移

原因	年度	28	29	30	R01	R02	R03
部内	取扱						
	鉄道	2	2	1		2	
	軌道	1		1			
	軌道	1	2			1	
部外	踏切				1		
	鉄道						
	軌道						
	軌道						
災害	鉄道						
	軌道						
計	鉄道	1	0	1	1	0	0
	軌道	3	4	1	0	3	0

(注) 列車事故とは、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故(軌道における車両衝突事故、車両脱線事故、車両火災を含む)を総称している。

図-8 列車事故種類別件数の推移



イ. 踏切障害事故

令和3年度の発生件数は7件と前年度(6件)より1件増加している。種類別では、第1種踏切において4件増加、第4種踏切において3件増加している。

原因別は、図-12のとおり、直前横断は前年度より1件増加の4件、エンスト・その他は前年度(2件)より1件増加した。

図-9 踏切道種類別事故件数の推移

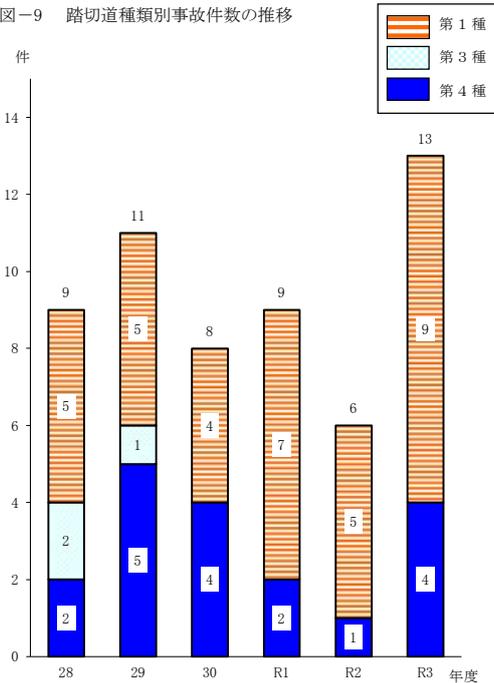
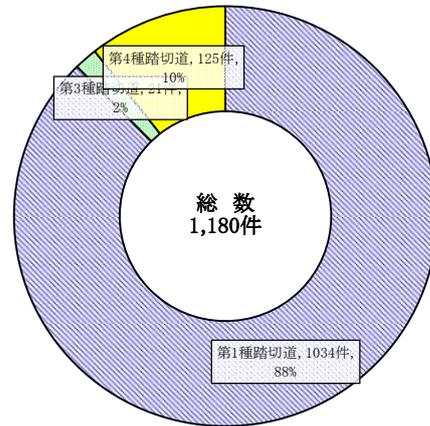


図-10 踏切道数



(注) 専用鉄道を除く。

表-3 踏切道種類別事故件数、踏切道100ヶ所当たりの事故件数の推移

踏切道種別	踏切道数		事故件数		踏切道100ヶ所当たりの事故件数	
	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度
第1種	1,045	1,034	5	9	0.48	0.87
第3種	22	21	0	0	0.00	0.00
第4種	134	125	1	4	0.75	3.20
合計	1,201	1,180	6	13	0.50	1.10

図-11 踏切障害事故 死傷者数の推移

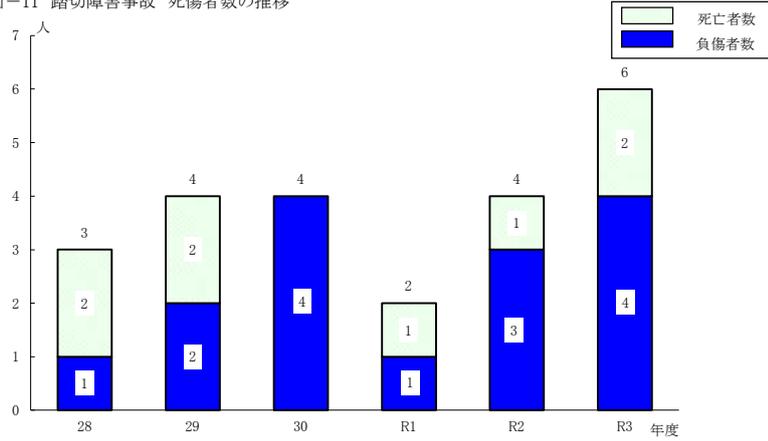


図-12 踏切障害事故 原因別件数の推移

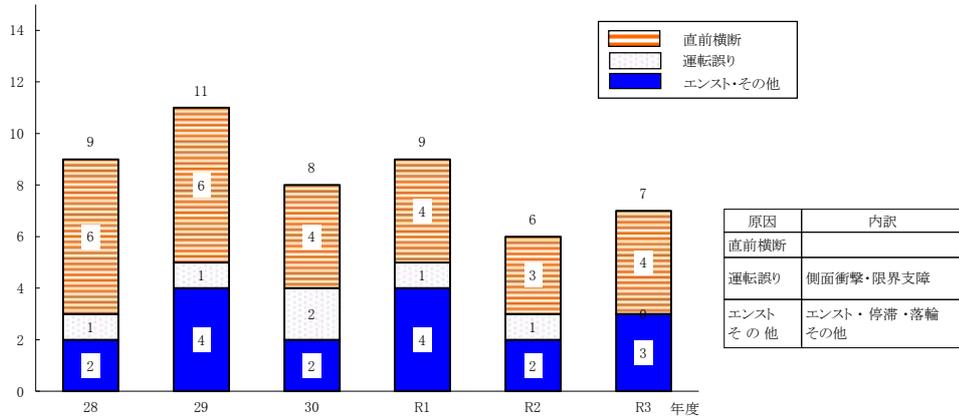
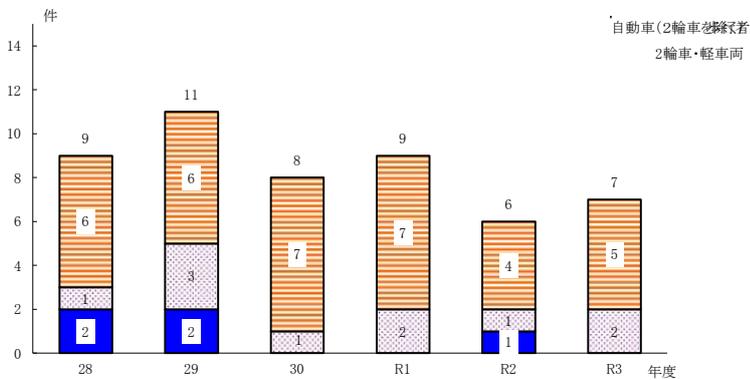
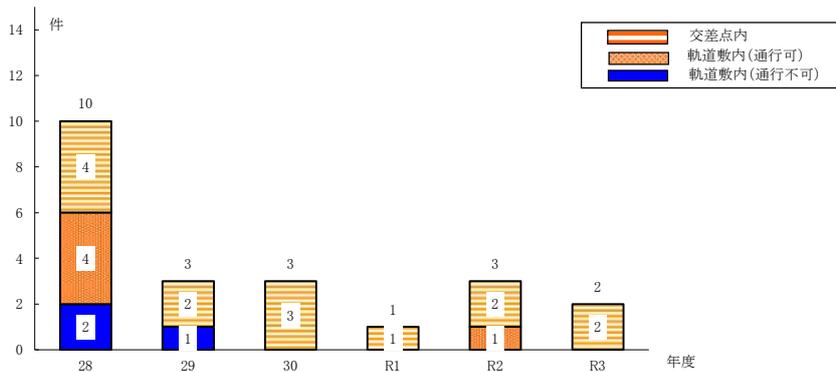


図-13 踏切障害事故 衝撃物別件数の推移



ウ. 道路障害事故

図-14 道路障害事故



(イ) JRの運転事故等の概況(九州管内)

JR3社(JR九州、JR西日本、JR貨物)の運転事故発生状況は表-1に示すように、総件数24件で対前年度1件(4.0%)減であった。

事故種別で見ると、前年度より踏切障害事故が1件増、人身傷害事故が2件減となっている。

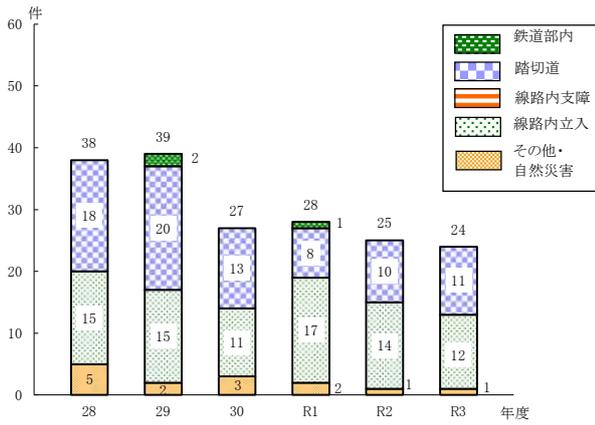
原因別に見ると、図-1に示すとおり、部外原因が100%であり、その主な内容は、踏切道(直前横断、エンスト等)と線路内立入となっている。

表-1 管内運転事故件数の推移

事故種別		年度					
		28	29	30	R1	R2	R3
列車衝突	件数						
	死亡						
	負傷						
列車脱線	件数	2					
	死亡						
	負傷						
列車火災	件数						
	死亡						
	負傷						
踏切障害	件数	18	20	13	8	10	11
	死亡	7	9	6	1	3	3
	負傷	10	16	2	1	2	4
道路障害	件数						
	死亡						
	負傷						
人身障害	件数	18	18	14	20 (1)	15	13
	死亡	7	15	11	13	11	8
	負傷	12	3	3	7 (1)	4	5
その他	件数		1				
	死亡						
	負傷						
合計	件数	38	39	27	28 (1)	25	24
	死亡	14	24	17	14	14	11
	負傷	22	19	5	8 (1)	6	9
列車走行キロ(千km)		80,560	78,743	78,536	74,079	77,490	69,942
100万キロ当たりの件数		0.47	0.50	0.34	0.38	0.32	0.34

(注) ()内は有責事故

図-1 運転事故の原因別件数の推移



運転事故の原因別件数

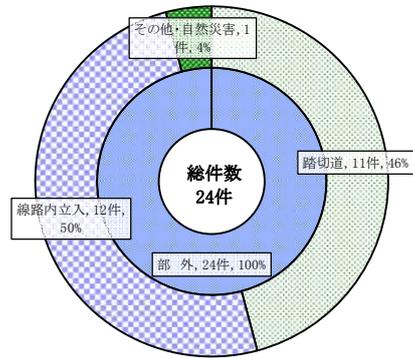
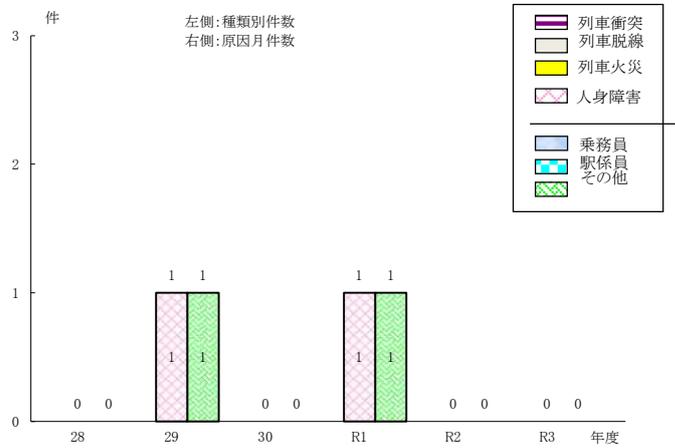


図-2 責任事故の種類及び原因別件数の推移



ア. 列車事故

令和3年度の発生件数は、図-3に示すとおり0件でした。なお、平成28年の2件については熊本地震による列車脱線事故である。

ア. 列車事故

図-3 列車事故件数の推移

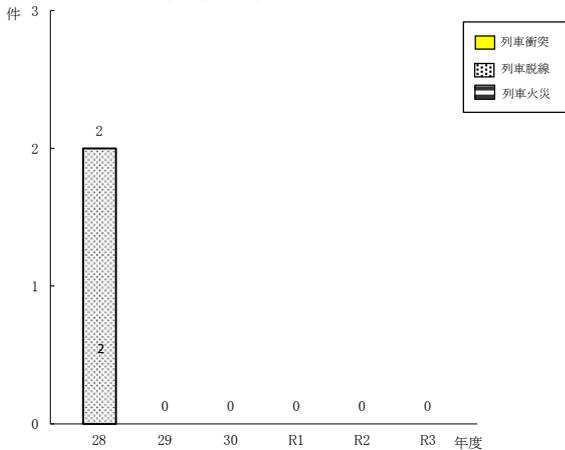


表-2 列車事故の原因別分類

原因		年度					
		28	29	30	R1	R2	R3
部内	取扱い						
	車両施設						
	その他						
部外	踏切						
	その他						
災害		2					
合計		2	0	0	0	0	0

(注) 列車事故とは、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故を総称している。

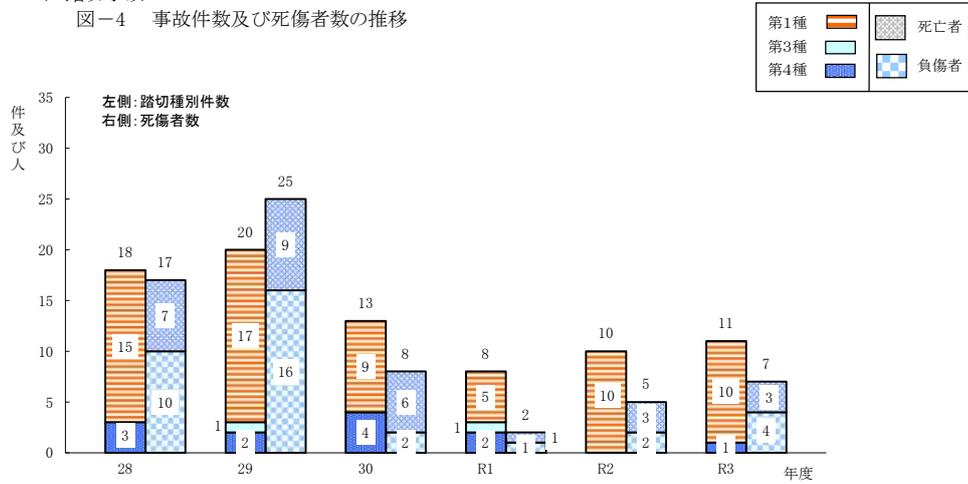
イ. 踏切障害事故

a. 事故件数及び死傷者数

令和3年度の発生件数は、図-4で示すとおり11件で前年度(10件)より1件増加している。また、死傷者数は7人で前年度(5人)より2人減少している。

イ. 踏切事故

図-4 事故件数及び死傷者数の推移



b. 原因別及び衝撃別件数

原因別では、図-6のとおり、直前横断が55%、落輪・エンスト・停滞が45%を占めている。衝撃物別では図-7のとおり、自動車が全体の45%を占めている。

図-5 原因別及び衝撃物別件数の推移

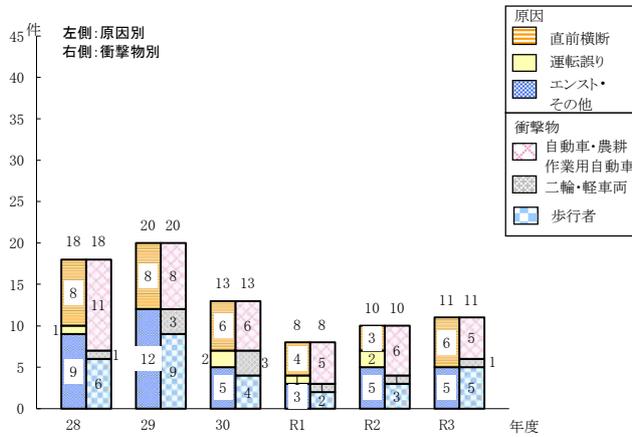


図-6 原因別件数

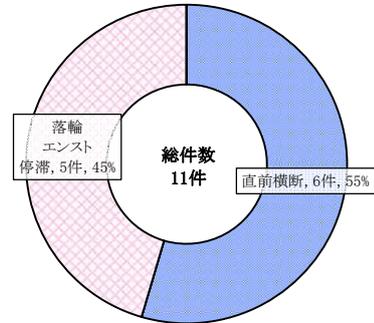
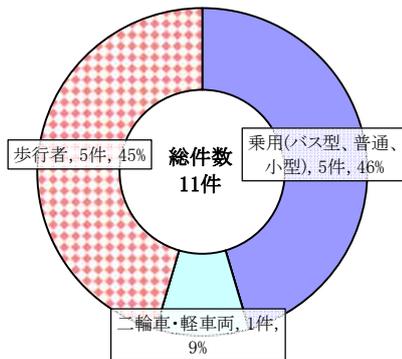


図-7 衝撃物別件数



衝撃物	内容
乗用	バス型、普通、小型乗用自動車
貨物	普通、小型貨物自動車
特種・特殊	特種・特殊自動車
二輪・軽車両	
歩行者	

c. 踏切道種類別の事故件数、踏切道100ヶ所当たりの事故件数

踏切道数については9箇所減少しており、事故件数については全体で2件増加している。

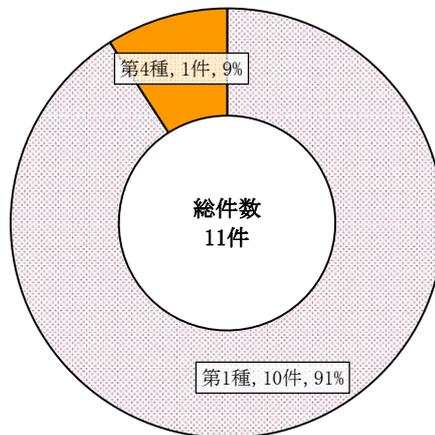
踏切道100ヶ所当たりの事故件数を踏切道種別で比較すると、第3種踏切道及び第4種踏切道では減少したが、第1種踏切道では増加している。

今後においても、さらなる踏切事故防止のためには立体交差化、自動車運転者等への道路交通法の遵守・マナーアップ等の対策が必要である。

表-3 踏切道種類別事故件数、踏切道 100ヶ所当たりの事故件数の推移

踏切道種別	踏切道数		事故件数		踏切道 100ヶ所 当たりの事故件数	
	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度
第1種	2,522	2,517	10	10	0.40	0.40
第3種	78	78	0	0	0.00	0.00
第4種	222	217	0	1	0.00	0.46
合計	2,822	2,812	10	11	0.35	0.39

図-8 踏切道種類別事故件数

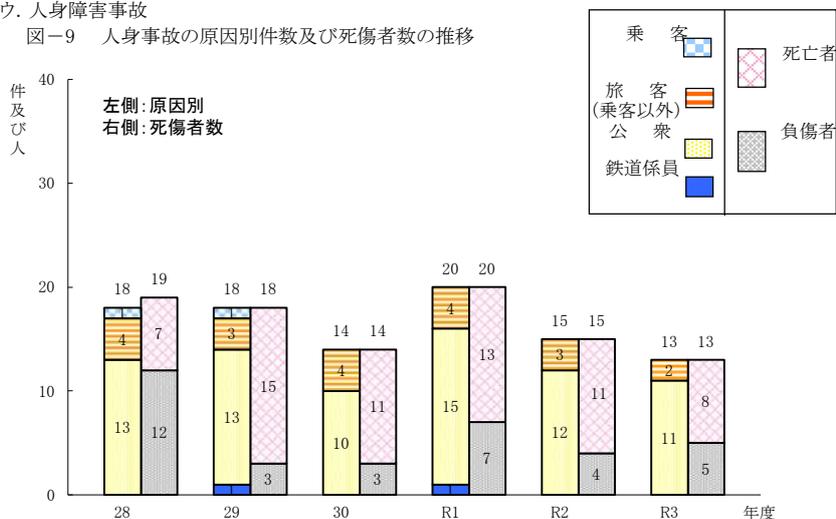


ウ. 人身障害事故

発生件数については、13件となっており前年度(15件)より2件減少している。また、死傷者数は13名で前年度(15名)より2名減少している。

ウ. 人身障害事故

図-9 人身事故の原因別件数及び死傷者数の推移



エ. 輸送障害

令和3年度の発生件数は、図-10のとおり306件で、前年度(447件)より40件減少している。
また、部内原因による輸送障害68件のうち車両が最も多く43件となっている。

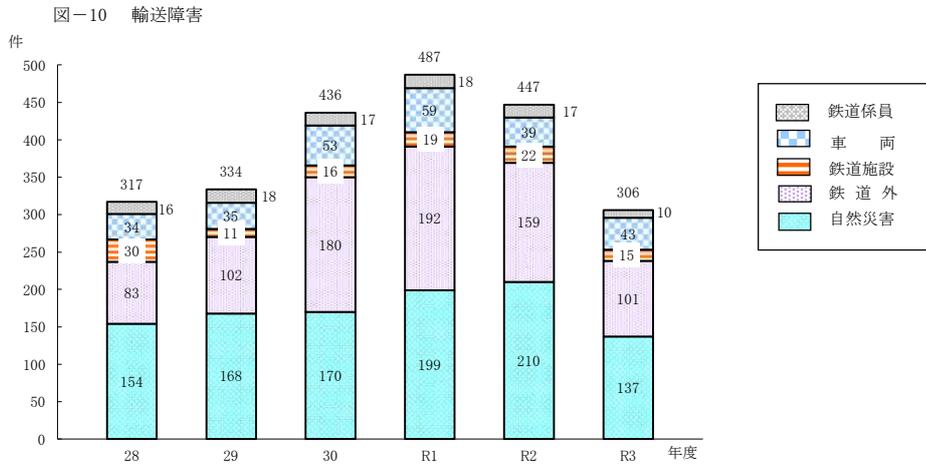
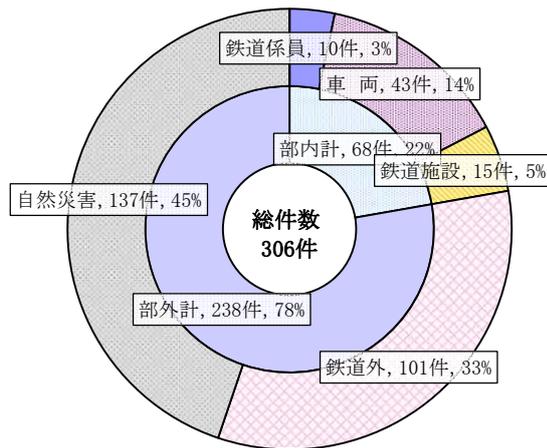


図-11 輸送障害の原因別件数



オ. インシデント発生状況

図-12 インシデント原因別発生件数

